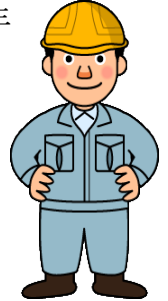


なぜ学びが必要なの？

「市町村4割 働き手大幅減」2月12日(月)の長崎新聞一面の見出しです。2050年時点の15～65歳の生産年齢人口を20年と比べたところ、699市町村が半数未満に減るそうです。五島市で見ると2020年に16,733人だった生産年齢人口がなんと6,668人にまで落ち込み、約1万人の働き手が消える見込みです。

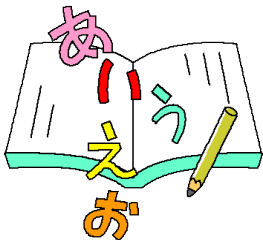
先日、テレビを見ていたら、ニュース番組のコメンテーターがこんな発言をしていました。「産業が発達し、豊かになった国で、人口がどんどん減り続け、少子高齢化していく国は、これまでに存在しない。人類初めてのことを、これからの日本の若者は経験していくのです。このような課題を克服していったモデルのようなものがないので、大変です。」



文部科学省は新しい時代に必要となる資質・能力として、「基礎的な知識や技能を習得すること」「習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育むこと」「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」と三つの柱を立てています。通知表でもおなじみの観点ですね。言わずもがな、私たち教師の本分は、この資質・能力を子どもたちに身に付けさせることです。学力を向上させるといってもいいでしょう。学力向上は未来を生きる子どもたちの進路保障につながるだけではなく、変化の激しい予測困難な時代を生き抜いていくために必要なことです。ですから、先生方には、子ども達が「わかった」「できた」「面白い」「もっと調べてみたい」「発表したい」といった授業を子どもたちに提供していくことを求めています。

一方で、保護者からいただいた学校評価には(数値結果については裏面に掲載)以下のような記述がありました。

- ・わからないところをそのままにして、復習をしようと努力しない
- ・こつこつと学習することができない。・テスト前もあまり勉強しようとしない。
- ・なかなか計画的に取り組むことができない。・学習以外に気が向いている。
- ・家庭学習よりテレビを見ている方が多い。



新しい時代に必要な資質や能力を育てていく(学力を向上させる)ためには、学校での学習はもちろんですが、家庭での学習も不可欠です。家庭での学習を充実させるためには、規則正しい生活が必要になってきます。保護者の協力が必要です。

私は、子どもたちが「理想の自分」に近づくために、そして、難しい時代を幸せに生きていくために学びを深めてほしいと思っています。なぜ学ぶのか?学ぶことの意味を、ご家庭でも話題にさせていただけると有り難いです。私たち教師も授業づくりに、学力の向上に、これまで以上に力を入れていきます。

生徒会執行部が頑張っています！

新生徒会執行部が先輩からの意志を引き継ぎ、精力的に活動しています。まず、取り組んだのはボランティア活動。「書き損じはがき(障害者や難病患者の福祉事業に役立てられる)の回収」や「能登半島地震被災者への募金活動」を行い、社会参画を果たしています。ちなみに、書き損じはがきは85枚募金は59,149円集まりました。中にはお年玉から、大きなお金を募金してくれた生徒もいたそうです。地域や社会の問題を解決するために、生徒会組織を活用して具体的方策を考え、取り組むことは、生徒会活動のねらいの一つです。そこで、私からの提案です。今度は岐宿町の課題に目を向けてもらえないでしょうか。そして、岐宿中生徒会が主体になって、地域の課題を解決するための活動を何かできないでしょうか。動きがあることを期待しています。



また、1月末に岐宿小学校で行われた新入生説明会では、中学校生活の様子や決まり事などを上手に説明していました。最後に「岐宿っ子体操」を披露し、6年生の子どもたちの表情が一面笑顔となりました。中学校生活への意欲や先輩に対する憧れがきっと増したことでしょう。

岐宿中学校生徒会の今後益々の活躍が楽しみです。